

令和4年度 高知地学研究会総会

- 1 会長挨拶
本日は、3年ぶりの総会を開催できました。ありがとうございました。本会の発展のため、今いっそうのご指導を、よろしくお願いします。
- 2 令和3年度 活動報告
 - (1) 総会・講演会
開催できず
 - (2) 会報
令和3年 6月30日発行56号
令和3年10月31日発行57号
令和4年 2月28日発行58号
 - (3) 講演会・地学巡検
令和3年12月11日(土) 佐川町立佐川地質館
講演「脊椎動物化石と高知県での展望」
佐川地質館 学芸員 森 浩嗣先生
第47回地学巡検「佐川町化石採取」
- 3 令和3年度 決算報告・監査報告
次ページ
- 4 令和4年度・5年度 役員選出
新役員 会長：南 寿宏 副会長：竹島洋文 幹事：堅田智英
会計：廣瀬敏行 会計監査：佐藤慎二 顧問：吉倉紳一
- 5 令和4年度 活動方針、活動計画(予定)
 - (1) 総会・講演会
総 会 令和4年7月30日(土) 高知県立岡豊高等学校
講演会 国立研究開発法人 海洋研究開発機構(JAMSTEC)高知コア研究所
グループリーダー代理・主任研究員 伊藤 元雄先生
「小惑星リュウグウの砂粒の分析から何がわかったのか？」
 - (2) 会報
59・60・61号
 - (3) 地学巡検
日帰りで計画中(候補・・・徳島県三好町ジオパーク)



講演会(2022/7/30 高知県立岡豊高等学校大会議室にて)

2021（令和3）年度会計報告

会計 廣瀬 敏行

収入の部	金額	支出の部	金額
前年度繰越金	150,549	通信費	4,711
令和3年度正会員 5組	10,000	印刷代	16,260
令和3年度家族会員 1組 + 1000	4,000	過剰金返金 2000 + 手数料200	2,200
令和4年度正会員 1組 + 1000	3,000		
その他	105,115		
		合計	23,171
		次年度繰越金	249,493
合計	272,664	合計	272,664

繰越金内訳

現金	16,175
徳島貯金センター	233,318
合計	249,493

会計監査報告

会計に関する証票類について、慎重かつ厳正に
監査いたしましたところ、帳簿の記載は正確で、
領収書類についても適切に保存されており、適
正かつ正確な執行であったことを認めます。

2022年 7 月 9 日

会計監査 佐藤 慎二



高知地学研究会 地学巡検一覧

1995/5/14	1	高岡郡佐川町鳥ノ巣	26	2008/9/15	吾川郡仁淀村
1995/12/3	2	高岡郡越知町	27	2009/2/1	室戸ジオパーク 1
1995/12/24	3	南国市南国インター工事現場	28	2009/10/10-11	室戸ジオパーク 2
1996/11/3	4	室戸市羽根町	29	2010/10/10-11	山陰ジオパーク
1997/2/2	5	吾川郡伊野町八田	30	2011/10/15-16	鬼ヶ島と香川瀬戸内
1997/5/18	6	土佐郡大川村白滝	31	2012/6/10	ごめん・なはり線 1
1997/11/9	7	高知城	32	2012/12/1-2	土佐清水市足摺岬
1998/4/26	8	高知市桂浜	33	2013/11/23・24	愛媛県西予市
1998/11/15	9	高知市鴻ノ森	34	2014/2/2	ごめん・なはり線 2
1999/4/25	10	吾川郡吾川村	35	2014/6/8	吾川郡いの町吾北
1999/11/7	11	土佐郡土佐山村工石山	36	2014/10/11・12	兵庫県淡路島
2000/4/23	12	長岡郡本山町汗見川	37	2015/06/28	高知城
2000/12/9・10	13	室戸市	38	2015/11/14-15	愛媛県別子銅山
2001/4/22	14	吾川郡吾北村	39	2016/10/15-16	岡山県万成花崗岩
2001/12/8・9	15	香川県小豆島	40	2017/12/9-10	島根県三瓶山
2002/4/21	16	土佐市・須崎市横浪半島	41	2018/06/9	高知市桂浜
2003/2/1・2	17	中村市・土佐清水市	42	2018/11/10-11	愛媛県砥部町松山市
2003/8/10	18	安芸郡芸西村西分	43	2018/12/2	高知市桂浜
2005/3/27	19	愛媛県久万高原町	44	2019/5/18	とさでん交通伊野線
2005/6/12	20	土佐郡大川村大川中学校前	45	2019/10/26・27	幡多郡黒潮町 土佐清水市竜串
2005/12/11	21	徳島県大歩危峡・阿波の土柱	46	2019/12/14	とさでん交通後免線
2006/6/11	22	高岡郡越知町	47	2021/12/11	佐川地質館
2006/12/2・3	23	愛媛県滑川溪谷			
2007/8/26	24	室戸市羽根町			
2007/12/9	25	高知市北部 龍馬の座った八畳岩			

市町村名は、巡検当時のものです。

沙弥島（香川県坂出市）は四国の沖合 3 km に浮かぶ小島であったが、1964 年に埋め立てにより陸続きになった。埋め立て地には番の州臨海工業団地が造成された。今はすぐ中央に瀬戸大橋が架かっている。下右写真にある島の南東の方形の部分は塩田で、今はスポーツ施設となっている。



沙弥島地形図

人麿岩…死人が伏せていたと言われる場所



沙弥島空中写真(1961 撮影)

白線(現在の海岸線)の右を埋め立て

今回は、この沙弥島が舞台である。その時詠んだ長歌および短歌 2 首の題詞が恐ろしい。

題詞 讃岐の狭岑(さみね)の島にして石中の死人を見て柿本朝臣人麿が作る歌一首并(あは)せて短歌

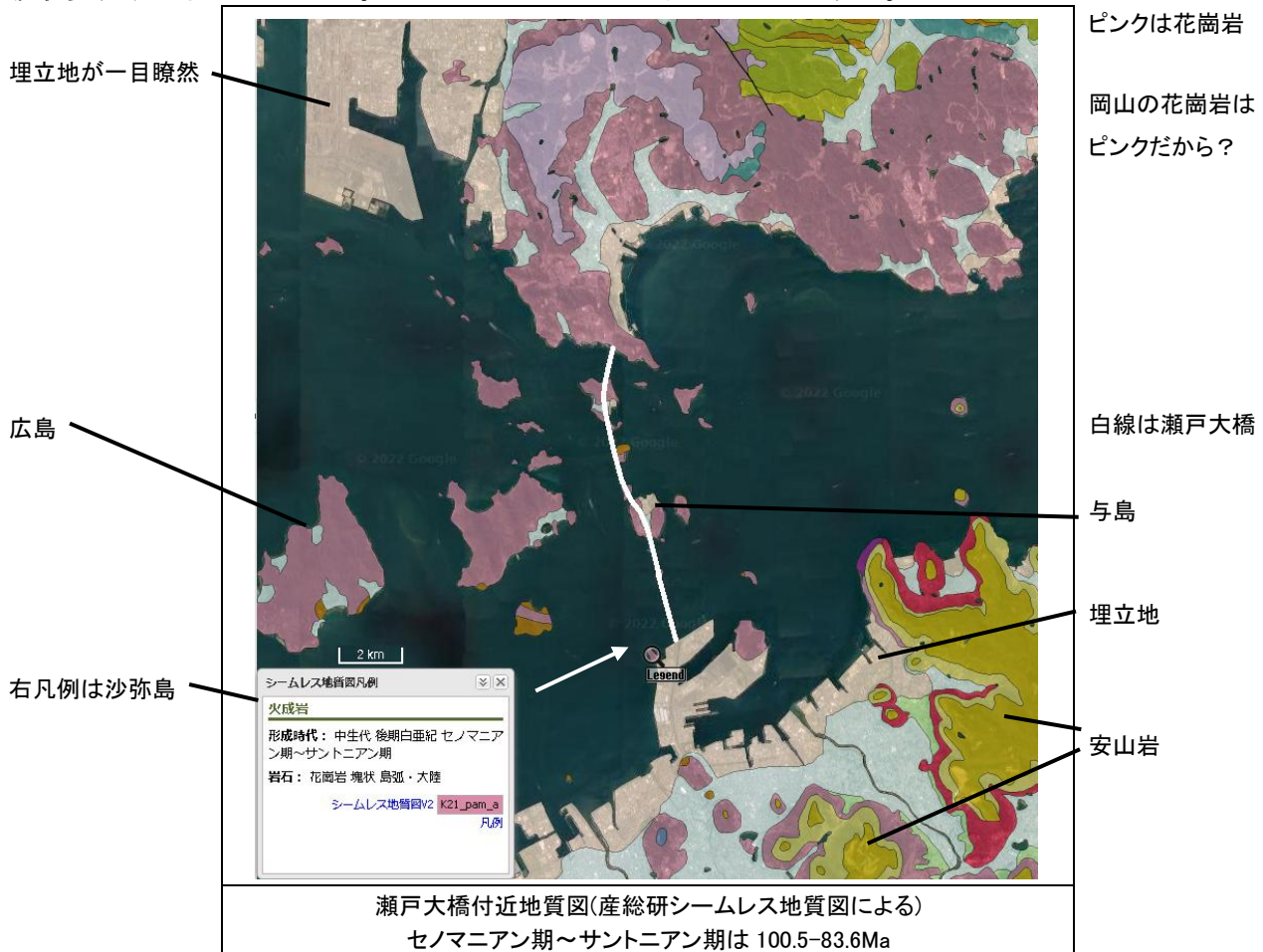
狭岑の島が現在の沙弥(しゃみ)島である。

人麿は讃岐方面に出張し、その帰路、寄港した那珂の港から難波港へ向けて船出。強い西風で海が荒れてきたので、沙弥島の東に回り込み、海岸で風避けをしたと思われる。那珂の港とは、丸亀市西部を流れる金倉川の河口付近で、現在の地名は丸亀市中津。『津』は港を表すので『中津』は『なかのみなと』となる。

(前略)	鯨魚取	海乎恐	行船乃	梶引折而	彼此之	嶋者雖多
	鯨魚取り	海を畏み	行く船の	梶引き折りて	をちこちの	島は多けど
	いさなとり	うみをかしこみ	ゆくふねの	かぢひきをりて	をちこちの	しまはおほけど
	(枕詞)	海が恐ろしくて	行く船の	梶が折れるほどで	あちこちと	島は多いが
名細之	狭岑之嶋乃	荒磯面尔	廬作而見者	浪音乃	茂濱邊乎	敷妙乃
名くはし	狭岑の島の	荒磯面に	庵りて見れば	波の音の	繁き浜辺を	敷栲の
なくはし	さみねのしまの	ありそにも	いほりてみれば	なみのとの	しげきはまへを	しきたへの
中でも	沙弥島の	荒い磯に	庵を作って見ると	波の音の	とどろく浜辺を	(枕詞)
枕尔為而	荒床	自伏君之	家知者	往面毛将告	妻知者	
枕になして	荒床に	ころ伏す君が	家知らば	行きても告げむ	妻知らば	
まくらになして	あらとこに	ころふすきみが	いへしらば	ゆきてもつげむ	つましらば	
枕にして	でこぼこの床に	伏している君の	家を知っていたなら	行って告げよう	妻が知ったならば	

来毛問益乎	玉梓之	道太介不知	鬱悒久	待加戀良武	愛伎妻等者
来も問はましを	玉梓の	道だに知らず	おほほしく	待ちか恋ふらむ	はしき妻らは
きもとはましを	たまほこの	みちだにしらず	おほほしく	まちかこふらむ	はしきつまらは
来て声をかけよう	(枕詞)	道すら知らず	心配して	待ち焦がれていよう	いとし妻は
鯨魚取り・敷栲の・玉梓のはそれぞれ、海・枕・道の枕詞					万葉集 卷二 220 柿本人麿

沙弥島には、縄文・弥生・古墳時代の遺跡が多数存在する。遺跡では、石室は花崗岩、蓋石は板状安山岩が使われている。それらの石はどこのものなのだろうか。



最近、産総研が公開した地質サイトに、シームレス地質図がある。上図は瀬戸大橋周辺の地質図である。沙弥島はピンクに塗られている（白矢印）。この地質図ではマウスを当てると、凡例が表示される。沙弥島は、『中生代後期白亜紀セノマニアン期～サントニアン期の塊状花崗岩』であることが分かる。したがって、石室の花崗岩は、古墳の周囲のものであろう。

では、蓋石の安山岩は？地質図を四国側にスライドさせると、多色の地質体が見える。東の五色台では、5色の地質体が観察できる。さすがは五色台(warawara)。高所から記述する。

- | | |
|------------------------------|-------------|
| ① 新生代新第三紀中新世後期ランギアン期～トートニアン期 | 安山岩・玄武岩質安山岩 |
| ② 新生代新第三紀中新世後期ランギアン期～トートニアン期 | デイサイト・流紋岩 |
| ③ 中生代後期白亜紀セノマニアン期～サントニアン期 | 花崗閃緑岩・トーナル岩 |

海岸に近づくと、

- | | |
|-------------------------|--------------------------|
| ④ 新生代第四紀後期更新世中期～後期更新世後期 | 段丘堆積物 |
| ⑤ 新生代第四紀完新世 | 谷底平野・山間盆地・河川・
海岸平野堆積物 |

が分布する。その北は埋立地である。

この地質図から分かるように、安山岩は、五色台まで行かなくても、坂出市・宇多津町の各所に分布する。飯野山（讃岐富士）もその一例である。

どこの安山岩であるにせよ、島から 3 km 舟をこぎ、上陸して山登り、石材を板状に割り、海岸まで担ぎ、舟に乗せて 3 km 戻るのだから、かなりの重労働であったと思われる。

ここに述べた花崗岩は、領家花崗岩にあたる。

領家花崗岩 (リョウケカコウガン) Ryoke granite

領家変成帯内に分布する花崗岩質岩類の総称。ふつうは領家変成帯の北縁の広島花崗岩や並木花崗岩を含まない。広域変成作用とほぼ同時あるいはやや遅れて貫入した古期領家花崗岩と変成岩類に複変成作用を与える新期領家花崗岩に区分。古期領家花崗岩は石英閃緑岩～花崗閃緑岩～花崗岩と変化に富み、強い片麻状構造をもって変成帯の構造に調和的に貫入。新期領家花崗岩は一般に均質塊状で非調和的に貫入。領家グループ(1972)以後、中部地方の領家花崗岩は濃飛流紋岩の活動を境にして古期・新期に分けられるようになった。花崗岩中の黒雲母の K-Ar 年代は 101～53Ma、Rb-Sr 年代は 112～68Ma。古期・新期・広島花崗岩の間では年代の差がはっきりしない。Rb-Sr 全岩アイソクロン年代は 96～73Ma で、古期花崗岩の CHIME モナズ石年代は 95～90Ma である。

[山田哲雄, 地学団体研究会編 新版地学事典]

瀬戸大橋はいくつかの島に橋脚を立てて瀬戸内海を渡っている。それらの島は、ほとんどがこの領家花崗岩からできている。したがって、橋を渡る列車から島の花崗岩が見える。特に、下り高松・高知方面行列車から与島の石切り場がよく観察できる。与島の花崗岩は角閃石黒雲母花崗岩であり、与島の西 15km の広島に多く分布し、青木石と呼ばれる。下り列車が与島にさしかかると、左車窓にご注目を。その切り口は垂直、下には海水が溜まっている。かなり大きい石材を切り出したのであろう。石は大阪城まで運ばれたか、近くの高松城、丸亀城で使われたか。これらの城に行った際には、そんな目で石垣を見るのもご一興味か。この石切り場、通るたびにもう何十回も見ているが、写真撮影ができていないので、ここにお見せできないのが残念である。もしかして、本会会員の中にどなたか、坂出市・宇多津町近辺に在住の方がおられ、列車で瀬戸大橋を往復し、写真を撮って送ってこないだろうか、と、以下、独り言。

い てくれたらいいなとはおもいま す
し かし、いなかったらしかたない が
い らっしゃったらしあわせなんだ わ
ま あ、むりはなさなくていいか ら
み んなみたいだろうからごくろう さま

与島でいろいろググっていると、『さざれ』という商品を発見した。それが右図である。ご覧のように、これは与島産の花崗岩を磨いたもの。右図の商品は 100 g で税込み 880 円+送料 250 円で購入することができる。

この他にも、『さざれ』を球状に磨き、紐で結んだブレスレットも検索された。画像は省略するので各自で検索を願うが、見た目は数珠。

次の総会・巡検では、光り物の大好きな K 田さんが、じゃらじゃらさせているだろう。



商品は通販で入手可

ジオロジー鉄道の旅 伊野編（その2）

南 寿宏

とさでん交通伊野線 停留所コード一覧(南寿宏・私案)							
TW01	はりまや橋	TW10	上町四丁目	TW19	曙町	TW28	枝川
TW02	堀詰	TW11	上町五丁目	TW20	朝倉(大学前)	TW29	伊野商業前
TW03	大橋通	TW12	旭町一丁目	TW21	朝倉駅前	TW30	北内
TW04	高知城前	TW13	旭駅前通	TW22	朝倉神社前	TW31	北山
TW05	県庁前	TW14	旭町三丁目	TW23	宮の奥	TW32	鳴谷
TW06	グランド通	TW15	蛭橋	TW24	咥内	TW33	伊野駅前
TW07	枅形	TW16	鏡川橋	TW25	宇治団地前	TW34	伊野
TW08	上町一丁目	TW17	鴨部	TW26	八代通		
TW09	上町二丁目	TW18	曙町東町	TW27	中山		

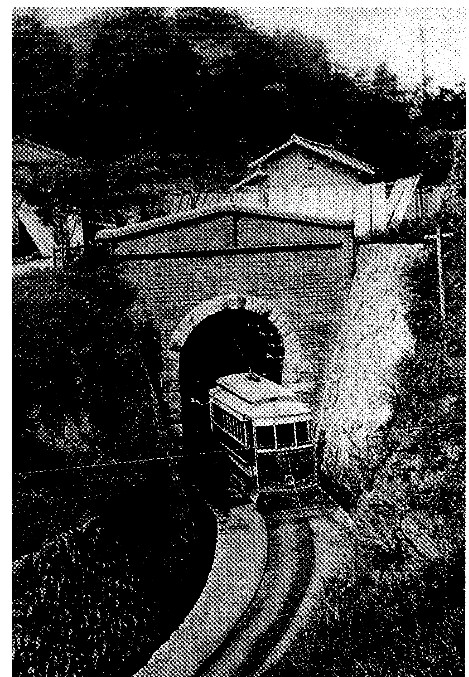
1 TW24 咩内（こうない）

伊野線の最高地点である。かつては、鉄道と国道は5mほど上を通っており、電車はその下をトンネルで抜けていた。右にかつてのトンネル入口を、下に現在の状況と路線図を示す。

- ① 下写真の小さな待合室の右、黒い車が停められているあたりに、電車の交換線があった。
- ② 電車線とJR線との立体交差部分に一等水準点がある。標高は27.0mである。工事前は、32.7mなので、掘削は5m。
- ③ 路面電車唯一のトンネルの東口。線路はここでS字カーブを描くので、電車の大きさに制限があったという。国道33号の改良による掘削で、トンネルは廃止されたが、擁壁がえぐられて部分は、廃線跡である。
- ④ トンネルの西口。少し西の擁壁では、かつての石積やレンガが観察できる。

③のスペースに交換線を設置し、電車のすれ違いを可能にすると、伊野線のダイヤが飛躍的に向上する鉄道ファンには垂涎のアイデアであるが、コロナで大打撃のとさでん交通にそれだけの余力があるかどうか。新設(復活?)咩内信号所で通票交換が見られれば、それだけでも観光資源になるのだが。

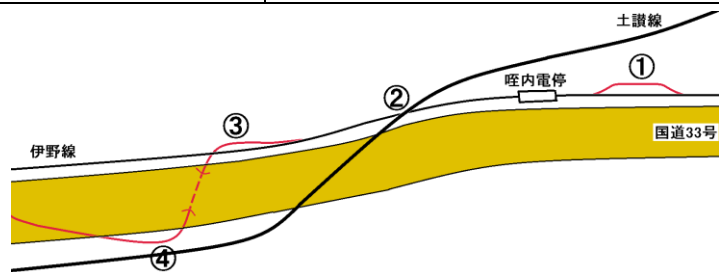
なお、本稿末に自作伊野線ダイヤを載せた。



かつての咩内トンネル入口(下図③)
土佐電鉄の電車とまちを愛する会(2006)



咩内電停



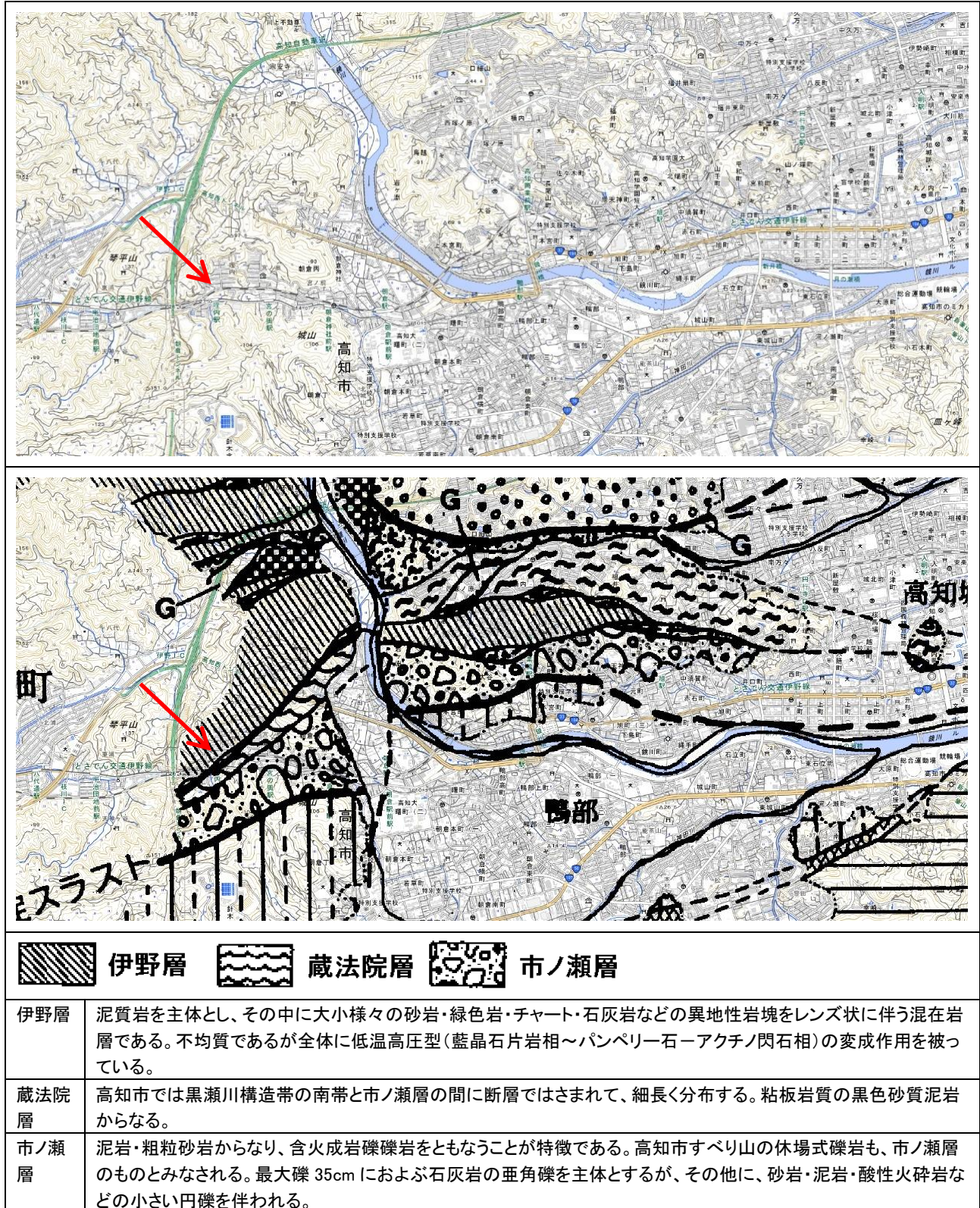
周辺の新旧路線図赤線が旧線部分。

この咩内を仁淀川が流れていたという説があるので、紹介する。

現在の仁淀川は中位・高位段丘が形成される頃には、東流していた。つまり、高知平野の半盆地を形成した地層は、東部の高位段丘城山層と中部分中位段丘能茶山層は、古仁淀川が西方から高知市を通過して東流していた証拠なのである。そこに、古鏡川が高知市西部の朝倉付近で合流していた。

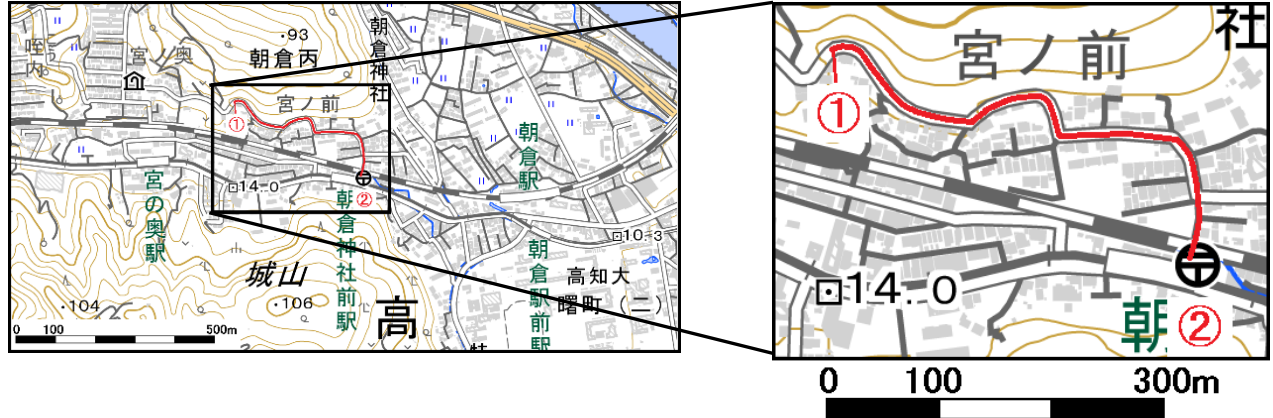
満塩(1998)による

高知市の地質については、波田の詳細な説明がある(波田(1993))。下図は、唎内付近の地形図および地形図・地質図の重ね合わせである。少々ずれているのは、ご容赦願う。赤矢印は唎内電停。

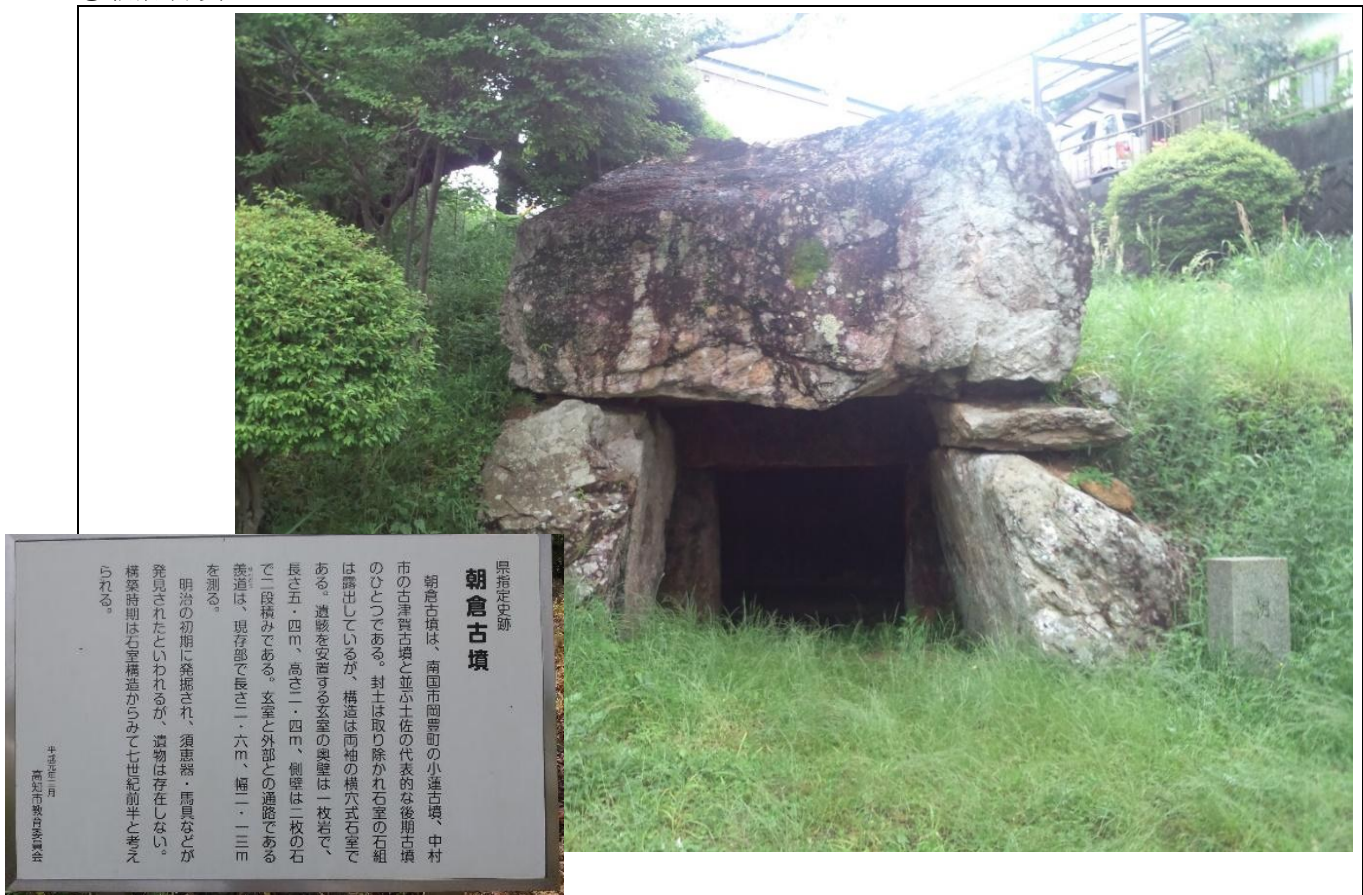


この重ね合わせ図によると、唎内付近は、伊野層と市ノ瀬層に、蔵法院層が細長く挟まれていることが分かる。国道は擁壁が築かれ、その様子が観察できないので、露頭観察は南の山を登ることが必要だが、未踏破。

2 TW22 朝倉神社前



①朝倉古墳



朝倉古墳(2019/4/30 取材)

(魏志倭人伝風に) 朝倉神社前電停より北西陸行十分、朝倉古墳に到る。

この古墳は土佐三大古墳のひとつである（あと2つは小蓮古墳(こはす 南国市岡豊町)と明見彦山古墳(みょうけんひこやま 南国市明見))。小蓮古墳は6世紀後半の円墳、明見彦山古墳は6世紀末～7世紀初頭の円墳であるのに対し、朝倉古墳は7世紀前半の古墳で、覆土が失われているので墳形は不明である。

古墳というと、前方後円墳を思い浮かべる。堺市の大仙古墳は仁徳天皇陵に治定されており、全長525mの世界最大の墓である。この形式の古墳は、大和朝廷の支配が及んだ地域に分布する。国内では、北海道、青森、秋田、沖縄以外の都府県にある。朝鮮半島南部にもある（→任那日本府の実在の根拠）。高知県に分布する前方後円墳については、後述する。

それではなぜ、土佐三大古墳は前方後円墳ではないのか、その理由を何点か述べる。素人考えとお聞き捨てくだされば、幸い。

- 1 前方後円墳は畿内では大王墓として、3世紀中頃から6世紀中頃まで築造された。土佐三大古墳の築造時期は6世紀後半以降である(これは、後述平田曾我山古墳が5世紀前半築造の前方後円墳であることと調和する)。
- 2 前方後円墳の築造には、強い権力・財力が必要である。つまり、
前方後円墳が築造できるほど広大な土地があったか。
前方後円墳の築造に従事する、多くの領民がいたか。
前方後円墳を築造をまかなえる、多額の財力があったか。
- 3 大和朝廷の許可はとれるのか(前方後円墳の築造は許可制)。

朝倉古墳は、横穴式であり、覆土がなく、石室がむき出しである。石室に使われている石材については、吉村(2005)の詳細な調査がある。

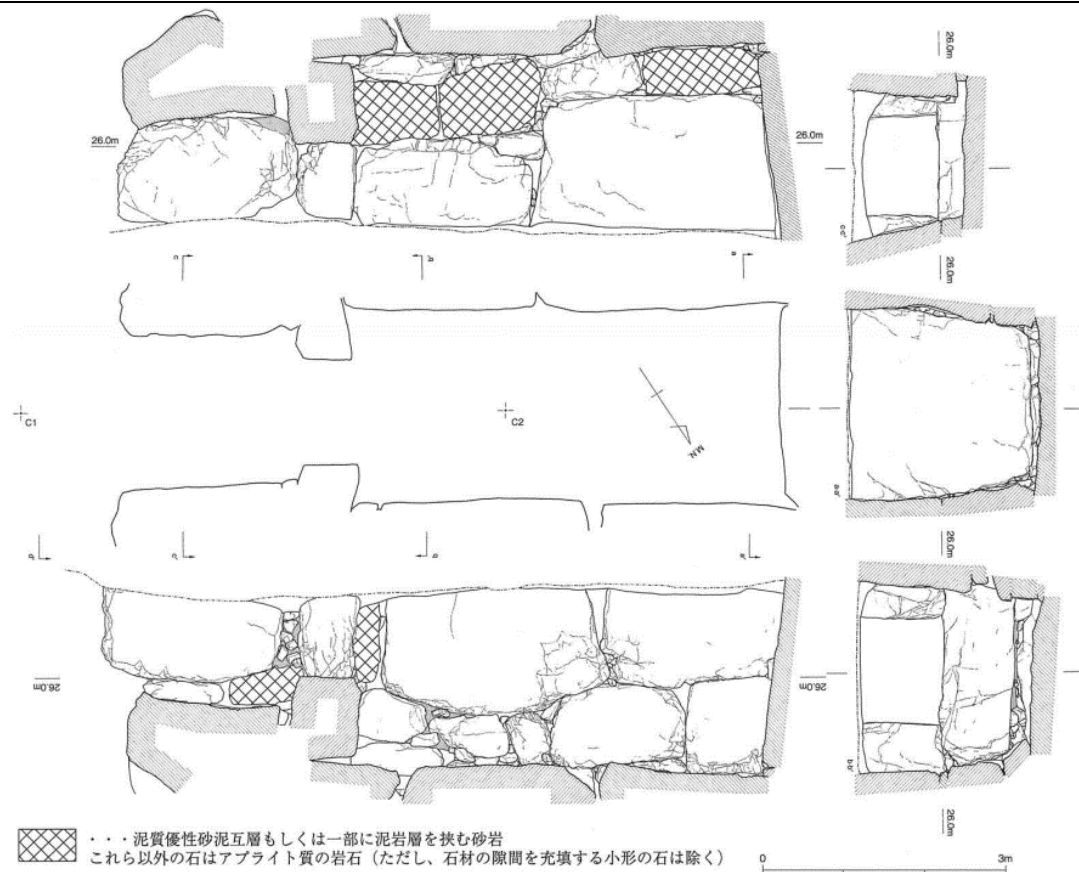


図9 石室使用石材

材質(岩石の種類)

石質は比較的平滑な表面を持つ大きな岩石により構成されており、大きな岩石の間を小さな岩石が充填されている構造となっている。大きな壁材および天材は、そのほとんどが比較的滑らかな表面をもつ岩石が用いられており、壁材の天井に近い部分の一部や充填岩石は、それほど平滑な面を持たない岩石が用いられている。石材の配置と岩石の種類を図9に示す。

石材の材質(岩石の種類)については、壁面と天井の平滑な面をもつ大きなものは、大半が石英および長石を主体とした岩石で、完晶質で鉱物粒子がほとんど認められないことから、アプライト質な岩石もしくは砂岩が熱変成を受け再結晶したもの(再結晶質砂岩もしくは塊状砂質変成岩)である。一部にわずかながらに鉱物粒子が肉眼的に認められるところもあり、熱変成を受けた再結晶質砂岩と認定できるものもあるが、風化面からは、肉眼観察によるアプライトと熱変成を受けた再結晶質砂岩の識別は困難である。石室を構成する大型の石材は、アプライト質岩石以外に、右壁側上部に3個、左壁側下部に2個について別の材質の石材が使われており、泥質優勢砂泥互層(外来岩片を含むメランジュ堆積物)もしくは、一部に泥岩層を挟む砂岩である(図版 7-1・2)。これら岩石は、アプライトのような平滑な面を持っていない。大きな石材を充填する小さな石材は、多くはアプライトもしくは再結晶質砂岩であるが、それ以外にも堆積岩(泥岩の基質に外来岩片を含むメランジュ堆積物)や堆積岩起源の弱変成を受けた岩石(砂泥質結晶片岩)が認められる。

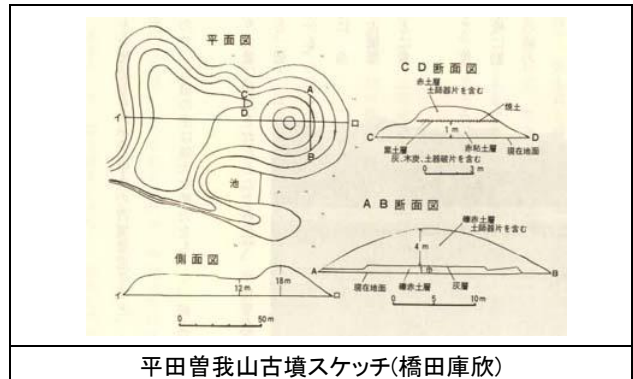
石材の産地

アプライトは岩脈として半普遍的に産する岩石種ではあるが、再結晶質砂岩や、砂泥質結晶片岩が共に産するのは秩父帯であり、石材は秩父帯から採取された可能性が高い。秩父帯も東西に帯状に分布する地質体であり、石材に使われている岩石は、限定的な地域に産する種類のものではないため、産地の特定は困難である。

吉村(2005)による

高知県に、確実に前方後円墳と分かっている古墳はない。かつては、宿毛市平田町の平田曾我山古墳と香美市土佐山田町の伏原大塚古墳の2つが前方後円墳であるとされていた。後に伏原大塚古墳は方墳であることが分かったが、平田曾我山古墳は前方後円墳の可能性が残されている。

1948年、幡多郡平田村(現、宿毛市平田町)の平田中学校建設工事の際に銅鏡、鉄剣等が出土。地元の史家、橋田庫欣があわてて駆けつけたが、墳丘はほぼ壊されていた。橋田は作業員に聞き取りを行い、緊急のスケッチを残した(右図)。このスケッチにより、古墳は高知県唯一の前方後円墳と考えられたが、現在は古墳そのものが実存せず、確認できない。出土物、橋田のメモから、築造は中期古墳時代の5世紀前半と推定される。



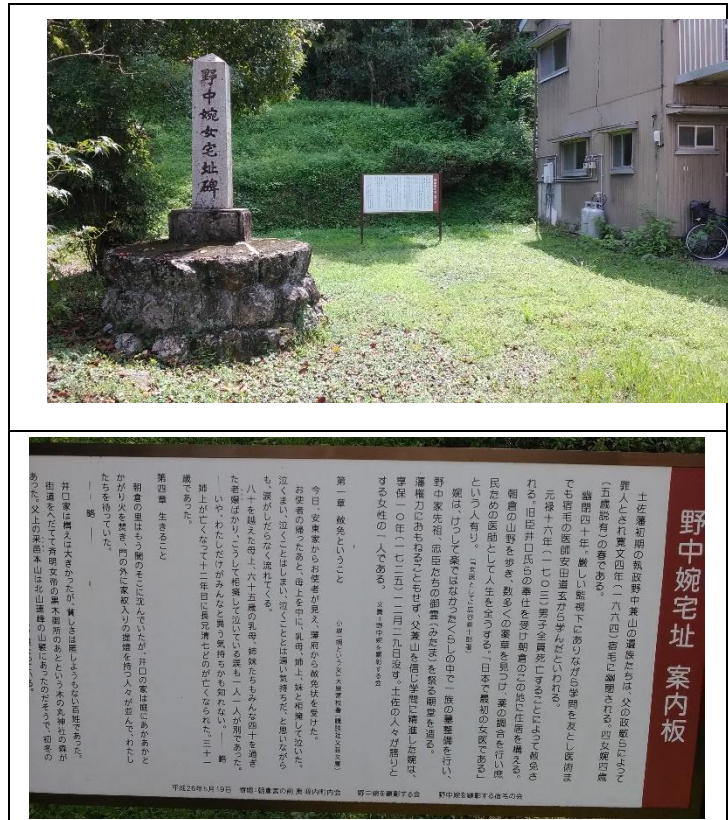
平田曾我山古墳スケッチ(橋田庫欣)

古墳は北緯 32 度 57 分 12.50 秒、東経 132 度 47 分 43.44 秒にあり、これは宿毛線平田駅と平田小学校の中間あたり、現在コンクリート会社の工場が建っているあたりと思われる。

②史跡野中婉(のなか えん)女宅跡

朝倉神社前電停の向かい側に、土佐藩の家老である野中兼山の娘、野中婉の旧邸跡がある。父兼山(1615-1664)は土佐藩家老として、新田の開発、堤防の建設、港湾の整備等を行い、土佐藩の発展に尽力した。今でも、物部川の山田堰、手結港の掘り込みなど、兼山の業績を各地に見ることができる。しかし、彼は年貢を厳しく取り立て、華美・贅沢を禁じるなど、領民を苦しめた。そのため、晩年には失脚し、家族とともに宿毛配流となった。幽閉生活は男系が絶えるまで続き、その間女兒は結婚を許されなかった。婉(1661-1726)もその一人で、彼女は40過ぎまで宿毛で幽閉生活を続け、1703年に土佐郡朝倉村に移住、医師としてその一生を終えた。名医であったという。

現地には碑があり、取材時は敷地全体をドクダミが覆っていた。



(伊野編 続く)

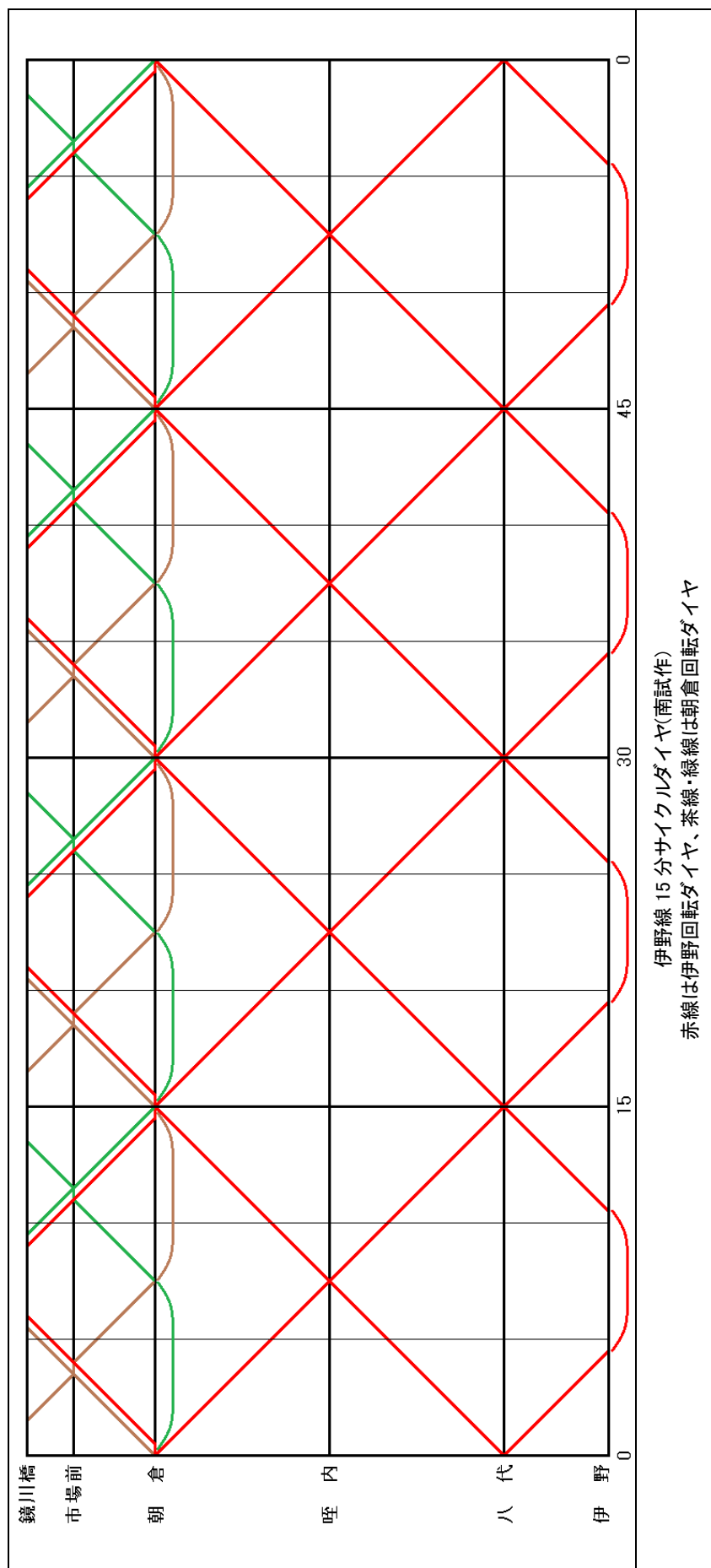
【文献】

波田重熙(1993): 高知市の地質とその起源, 高知市文化財調査報告書

満塩大洗(1998): 完新世(沖積世)における高知県の環境変化—高知県の完新統(沖積層)一, 高知大学学術研究報告 Vol.47 p.33-48

土佐電鉄の電車とまちを愛する会(2006): 土佐電鉄が走る街 今昔, JTB

吉村康隆(2005): 朝倉古墳測量調査報告書, 高知大学人文学部考古学研究室



伊野線のダイヤは、かつては21分サイクルだったが、昨年(2021年)1月より八代信号所での電車交換を休止して42分サイクルになった。そこで、八代信号所の復活および、新しい信号所の設置で2か所で電車の交換を可能にして、15分サイクルのダイヤを作成した。新信号所は、勾配が小さく、朝倉・八代からの距離を考慮して、埴内電停の西100mの、擁壁が大きく外に膨らんでいるところとした。この地点は、埴内トンネル時代のS字カーブ地点にあたる(本会報 p.8 ③)。

朝倉・伊野間は、2閉塞区間だったので、通票(タブレット)はもう1種必要である。タブレット交換は、路面電車としては他に例を見ないだけに貴重で、観光資源としても有用である。

朝倉・八代間は所要15分で設定した。現行ダイヤは11~13分だから、余裕がある。また、市場前・朝倉間はネックで、15分サイクルならば朝倉回線電車が入らない。そこで、続行運転による朝倉回線ダイヤ(茶色および緑色ダイヤ)を挿入した。茶色ダイヤは下り朝倉まで単独運転、朝倉で上り線に転線のおかげで、伊野発上り電車の先行運転をして鏡川橋以東に帰る。緑色ダイヤは下り伊野の後ろを朝倉まで続行運転、朝倉で上り線に転線のおかげで、鏡川橋以東に帰る。

これで市場前・朝倉間は1時間に12本の電車が通行できる。高知大学入試等で輸送力強化が必要な場合は、茶色ダイヤ・緑ダイヤとともに2面の続行運転とすることで、1時間16本運転が可能になる。ただし、一部で3本の続行運転となる。信号は3面の続行が可能だが、折り返し線路の有効長が問題になるかも知れない。上記は市場前・朝倉間所要3.5分でダイヤを作成したが、現行ダイヤでは3~4分所定であり、そこが厳しい。

続行運転を行うための各種取り決め(通票の取り扱い・続行票の取り付け・続行運転用の信号表示等)は、ファン必見。

編集後記

- 昨年(令和3年)12月の佐川地質館での講演および化石採取会を行いました、私事と重なり、参加できませんでした。そこで、改めて一人で佐川地質館取材しました。
年齢の分かるものを掲示すると、入場無料でした。ありがとう、佐川町さん。
屋外展示場の枕状溶岩、ミニ鍾乳洞はそのままでした。案内表示はすっかり色あせていて、30年の長さを実感しました。また、立体映像による紹介、音が悪い。何を言っているのか、よく分かりませんでした。メンテナンス、大事ですね。
高知県の岩石として、地質館の産みの親、甲藤次郎先生はチャートを薦めておられたように思います。でも、今回見ると、ラパキビ花崗岩になっていました。甲藤臭が吉倉臭に変わった？
主展示室の半球型プレートテクトニクス再現装置は健在。太陽・惑星の模型もありました。冥王星は準惑星になったからか、見当たりませんでした。
地質館の準備中、甲藤先生の講演をお聞きし、その後、歓談させていただく機会がありました。地球模型からスパイラルに降りてきて、各時代の化石を展示する、という展示内容をお聞きし、それなら太陽から冥王星までの模型を展示すると面白いですね、と何気なく申し上げると、甲藤先生は「ああ、それ、いいですね。」とメモを取っておられました。そして、実現。もう誰も知らないことですが、あれは、私のアイデアですよ、私の。
文句ばかり言っていますが、楽しい1日でした。
佐川町は牧野富太郎博士の『朝ドラ』登場で盛り上がっていました。地元のサンシャイン佐川店は社長が牧野さん。親戚かな。そこでおいしそうなお弁当を買いました。地元の食材が入っているのかな、と思い、帰宅してから見ると『高知市秦南町K食品製造』。うちの家のおすぐ近くでした。
- 前回、原稿が多くて紙面が足りず、紙上巡検「とさでん交通伊野編」が掲載できませんでした。今回載せます。会報を参考に、ご自分で巡検されてはいかがでしょう。
- とさでん伊野編はあと1回で終了、その後は、とさでん南北編に移ります。
- 令和4年度講演会は伊藤元雄氏の講演を行いました。内容をテープ起こしし、会報に掲載する予定でしたが、講演内容が論文発表前のものを含んでいるので、録画・録音不可でしたが、その分、突っ込んだ質疑応答が出来ました。講演に来ていた徳島県三好市ジオパークの殿谷梓さんにまとめを頼んでいますが、そのような事情で本号での報告はできません。いずれご紹介できると思いますので、ご了承ください。
殿谷さんの鋭い質問で、伊藤氏、タジタジだったとだけ、言っておきます。

発行：高知地学研究会

E-mail: hirot@ark.ocn.ne.jp

(南 寿宏)